

100万人のキャンドルナイト@熱海 報告書

2020/07/07

熱海マリンサービス・未来創造部

概要

- ◆ 「未来の子どもたちにきれいで楽しい地球を残したい」をビジョンに2020年4月に活動を始めた未来創造部は2020年6月21日の夏至の夜、2003年に始まった「100万人のキャンドルナイト」を、特別な形で熱海で開催しました。
- ◆ 新型コロナ状況下であるため、「人を集めない」代わりに、ライブ配信で熱海市民はもちろん、日本全国や国外の方々にも楽しんでいただくことができました。
- ◆ キャンドルを入れるホルダーは、地元の福祉作業所「ふれあい作業所」にお願いして、市中から集められるガラス瓶やグラスから選り分けて洗浄して、1000個用意していただきました。
- ◆ 当日夕方に10数人のボランティアが集まり、渚小公園の階段をつかって「ハートの中にキャンドルが灯っている」絵を1000個のキャンドルをつかって描きました。20時の開始時刻少し前に点灯開始、20時に主旨説明を含めた挨拶でキャンドルナイトをスタートし、直後に、たまたまでしたが、10分にわたって打ち上げ花火があがり、花火とキャンドルのすばらしい協演となりました。地元のバイオリン奏者の演奏や、さまざまな大きさや形のキャンドルを見ながらの語りなどを、地元でたまたま通りかかった人々や、ライブ中継を見ている国内外の多くの方に楽しんでいただきました。
- ◆ 事前のネット募金と当日の募金をあわせて、50人を超える方々から、合計240,450円の寄付金をいただきました。ネット募金の手数料(5%)を差し引いた23万円のうち、「国境なき医師団」へ11万5千円、「ふれあい作業所」へ6万9千円、地元の福祉施設「陽光の園」へ4万6千円をお届けしました。ネット募金の手数料以外にキャンドルナイト開催にかかった経費はすべて、未来創造部が負担しました。3団体からそれぞれ受領証・感謝状をいただき、ボランティアさんともお祝いの会を楽しみ、今後のさらなる活動へのつながりができました。
- ◆ 今回のキャンドルナイトの取り組みは、地元の3紙（熱海新聞、伊豆毎日新聞、静岡新聞）がそれぞれ紙面に掲載して取り上げてくれました。また、「100万人のキャンドルナイト」のネットワークや、約1万人の関心層へ情報発信をしている枝廣淳子の環境メールニュース、Facebookなどを通じて、国内外の多くの人々に熱海発のユニークな取り組みを知っていただくことができました。

イベント開催までの経緯

5/13

「100万人のキャンドルナイト」の呼びかけ人代表の1人だった枝廣淳子（未来創造部副代表）に、当時の呼びかけ人代表から「こういう状況の中で、キャンドルナイトの出番ではないか、という気がしてなりません。昔のロックバンドの一回きりの再結成みたいな感じですが、いかがでしょう」というメールが届き、5人の呼びかけ人代表の間でやりとりが始まりました。

5/20

「100万人のキャンドルナイト」の呼びかけ人代表5人と事務局メンバーが夜20時より、それぞれキャンドルを灯しながら、オンライン会議で話し合う。「コロナの向こうを照らす明かり」というコンセプト・スローガンを決め、人を集めてのイベント開催ではなく、Facebookグループページをつくっての呼びかけなどを進めることを決めました。

5/26

「100万人のキャンドルナイト」Facebookグループページが立ち上がりました。最終的にメンバーは800人を超えました。

このころ

枝廣淳子が、未来創造部で、「自分がかつて呼びかけ人代表をしていた100万人のキャンドルナイトをふたたびやることになった」と話したところ、TAKATA-FESなどビーチでのキャンドルアートなどを主宰していた光村智弘（未来創造部代表）、大久保千恵子（未来創造部マネージャー）が「熱海でもやろう！」と提案し、未来創造部主催のイベントとして開催することを決めました。

6月上旬

どのような形で開催するか、未来創造部で話し合いを重ね、事業計画を作成しました。

6/10

事業計画をもとに、熱海市に対して施設使用申請書を提出し、施設使用許可を得ました。

ネットショップを利用し、募金サイトを立ち上げ、募金の呼びかけを始めました。

6/12

当日、キャンドルナイトの会場で演奏をお願いしたいと思っていた市内のバイオリン奏者・真野有奈さんにお声がけをし、ボランティアでのご協力をいただけることになりました。

6/12

チラシが完成しました。

6/15

ライブの動画配信をお願いしたいと思っていた岡田良寛さんに詳細を説明してお声がけをし、ボランティアでのご協力をいただけることになりました。

6/18

岡田良寛さんと動画配信の手順を確認・シミュレーションしました。ウェブカメラを発注しました。

6/20

大久保千恵子が段ボール箱を刻んで製作した、夜景に浮かび上がる「ATAMI 未来創造部」が完成しました！

最終打ち合わせ。夜に現場確認。

6/21

当日。幸い雨も降らず、素敵なキャンドルナイトとなりました。

6/25

国境なき医師団へ寄付金を振り込みました。

6/29

市役所総合福祉センターにて、健康福祉部の金子理事、社会福祉協議会の櫻井会長の立ち会いのもと、ふれあい作業所と陽光の園の代表者の方々へ、寄付金を贈呈しました。地元のメディアも取材に来てくれました。

7/2

当日手伝ってくれるボランティアメンバーが集まり、寄付額等の報告、振り返りをするともに、今後もいろいろと活動していこうと話しながら、お祝いの会を楽しみました。

会計報告

収入の部

ネット募金 209,000 円

現金での募金 31,450 円

合計 240,450 円

支出の部

ネット募金の手数料 10,450 円

国境なき医師団への寄付金 115,000 円

ふれあい作業所への寄付金 69,000 円

陽光の園への寄付金 46,000 円

合計 240,450 円

参考（未来創造部の支出）

場所の使用料、キャンドルホルダー1000個、キャンドル1000個、国境なき医師団のポスターの郵送料、寄付金振込手数料、チャッカマン、当日のボランティアさん用お茶など、約5万円

寄付金受領書

413-0014

熱海市渚町
10-9

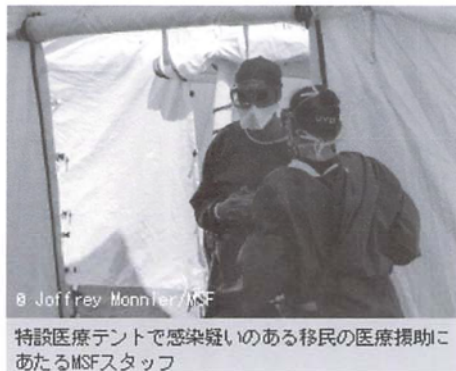
熱海マリンサービス未来創造部

枝廣 淳子 様

1012650



023 0030#



感謝状

熱海マリンサービス未来創造部 様

この度は国境なき医師団の新型コロナウイルス感染症危機対応募金にご協力いただき、誠にありがとうございました。

国境なき医師団では感染が拡大するヨーロッパや中南米、アジアにおいて、移民、高齢者、ホームレスなど、特に弱い立場に置かれた人びとへの支援を展開すると同時に、以前から活動を展開している医療体制がもともと弱いアフリカや中東をはじめとする国々での感染予防と流行への備えを行っています。

この度いただきましたご寄付はすべて、世界中を揺るがせている同感染症への医療援助活動および感染拡大の影響に伴うその他の援助活動のために大切に使用させていただきます。あらためて、ご支援ありがとうございました。

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本
事務局長
ジェレミー・ボダン

領 収 書

413-0014
熱海市渚町
10-9

熱海マリンサービス未来創造部 様

寄付金控除の申告には、認定NPO法人としての認定の証しをかかえているこの領収書をお使いください。

支援者番号：1012650

発行番号：20F0225836

発行日：2020年06月29日

受領金額合計 金115,000円也

上記の通り特定非営利活動に係る事業に対する寄付金として領収致しました。

上記の金額は、租税特別措置法第41条の18の2第1項及び同法第66条の11の2第2項並びに同法第70条第10項に規定する特定非営利活動に係る事業に関連する寄附に係る支出金に該当することを証明します。人道的緊急医療援助活動の資金として使用します。

■ 寄付明細 ■

寄付金受領日	受領金額
2020年6月25日	115,000円



特定非営利活動法人国境なき医師団日本（認定NPO法人）
東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3F
認定通知書番号：30生都管第960号
認定年月日：平成30年11月21日



キリトリ

寄付金控除に関するお知らせ

《<https://www.msf.or.jp/donate/kojo.html>》

国境なき医師団日本（認定NPO法人）への寄付金は申告により、所得税、法人税、相続税、一部の自治体の住民税について税制上の優遇措置を受けることができます。確定申告時に上記領収書を添付しご申請ください。

■ 個人による寄付

個人による寄付金は、「所得控除」か「税額控除」のいずれか有利な方を選択できます。ご申告の際には最寄りの税務署にご相談の上、ご自身にとって有利な方を選択してください。住民税からの控除については各自治体の条例により異なります。自治体または税務署へお尋ねください。※弊団では個別のアドバイスは致しかねますのでご了承ください。

■ 法人による寄付

法人が認定NPO法人に対して支出した寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別に特別損金算入限度額の範囲内が損金に算入されます。詳しくは最寄りの税務署にお尋ねください。

控除を受けるための手続き

所轄税務署にて確定申告を行ってください。年末調整では申告することはできません。

確定申告の際は弊団が発行したこの領収書を添付し申告してください。弊団への寄付は認定NPO法人への寄付です。

領収書に関するお知らせ

《<https://www.msf.or.jp/donate/ryosyu.html>》

「毎月の寄付」の領収書は1年分をまとめてお送り致しております。

「今回の寄付」の領収書はその都度お送り致しております。

- ① 「今回の寄付」を年に複数回される場合、1年間分の「今回の寄付」を1枚にまとめて翌年の1月下旬までにお送りすることが可能です。下記までお知らせください。ただし、すでに領収書発行済みの寄付に関しては対象外となります。
- ② 領収書発行後の宛名変更は原則として承れません。
- ③ クレジットカード寄付の場合、領収書に記載される受領日はカード会社から弊団への入金日であるため、カードご利用日（ご請求日）の翌月以降となります。受領日の変更は承れませんのでご了承ください。

寄付金の使途について： 皆様からの寄付金は、国境なき医師団が世界各地で行うあらゆる医療・人道援助活動費、ならびにそれらを支える広報・募金活動費、運営管理費に充てられます。弊団が指定する特定の使途に対する寄付金は、該当の緊急援助活動に優先的に充てられます。なお、指定された緊急援助活動に必要な資金を上回るご協力をいただいた場合、他の緊急援助活動に充てられる場合もございますのでご了承ください。

個人情報について： お寄せいただいた住所などの情報は、個人情報に関する法令を遵守の上、厳正に管理し、国境なき医師団日本からの案内や領収書発行以外の目的で使用することはありません。

お問い合わせの際には、支援者番号をお知らせください。

電話： **通話料無料** 0120-999-199（平日9:00～18:00、土日祝日・年末年始休業） ウェブサイト： www.msf.or.jp

2086

寄附金受領証明書

住所 〒413-0014 熱海市渚町10-9-2階

氏名 熱海マリンサービス(株) 未来創造部 様

¥ 69,000.-

上記の金額を受領いたしました。

令和 2 年 6 月 29 日

認定通知書番号 県民第560号

認定年月日 平成30年3月19日

静岡県熱海市網代529-84

特定非営利活動法人

熱海ふれあい作業所

代表理事 荻沢 洋子



(注) 上記の金額は、当法人が行う特定非営利活動に係る障害福祉サービス事業に関連する寄附金として受領した金額であり、租税特別措置法第41条の18の2第1項及び同法第66条の11の2第2項に規定する特定非営利活動に係る事業に関連する寄附に係る支出金に該当することを証明いたします。

令和2年6月29日

熱海マリンサービス株式会社

未来創造部 代表 光村 智弘 様

社会福祉法人緑葉会 陽光の園

理事長

高田 俊彦



拝啓 貴下ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素より、当事業所につきましては深いご理解とご協力をいただきまして心より感謝申し上げます。

また、このたびは当事業所にご寄付を賜りまして誠にありがとうございました。

ご厚志につきましては、ご趣旨を体しまして利用者の方が充実した活動をして過ごすための支援の資金として有効に使用させていただく所存でございます。

書面にて失礼とは存じますが、このたびのご厚情に対しまして一言お礼のごあいさつを申し上げますとともに、貴社の一層のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

敬具

No. 31-②

領 収 書

熱海マリンサービス株式会社
未来創造部 代表 光村 智弘 様

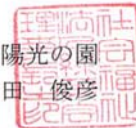
一金 46,000 円

但し、当法人が行う社会福祉事業のための寄附金として
(所得税法第78条の第1項該当)

上記正に領収いたしました

令和2年6月29日

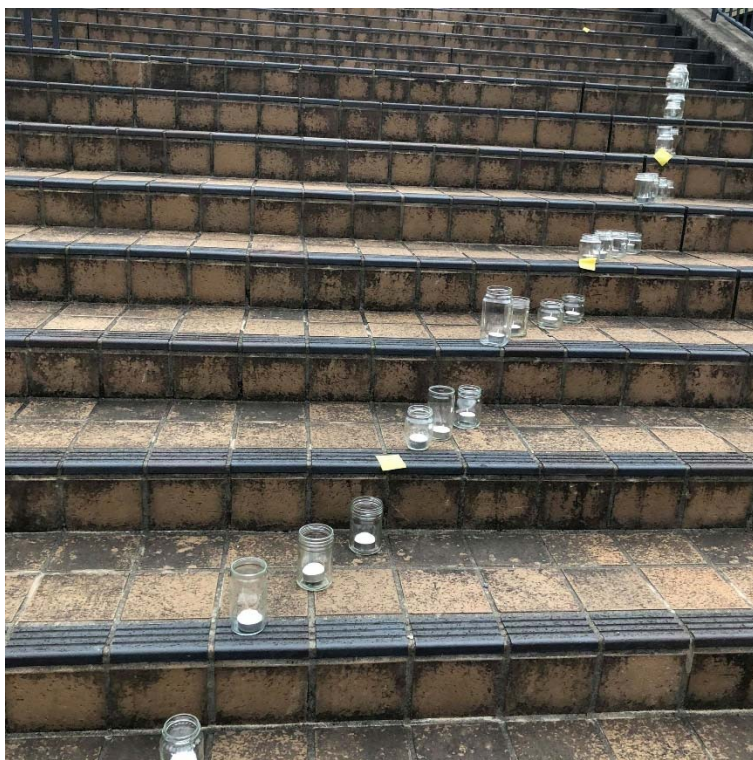
社会福祉法人緑葉会 陽光の園
理事長 高田 俊彦



当日の写真



ふれあい作業所さんにつけていただいたキャンドル・ホルダー。1000 個以上ありました！



熱海ビーチクラブのメンバーをはじめとするボランティアチーム、18 時集合で、1000 個のキャンドルを並べます



19:40、点灯開始です。暗闇の中に優しい炎の揺らぎでハートとキャンドルが浮かび上がります



キャンドルアート、完成しました。「ATAMI 未来創造部」の灯も浮かび上がります。未来創造部、これからもっともっと熱海でこんなふう灯していきたいな、照らしていきたいな、みんなが集まれるあたたかい場所をつくりたいな、との思いを新たにしました。そして、オープニングの挨拶が終わったタイミングで.....



10分近く、次々と花火が上がり、歓声があがりました。みんなへのプレゼントみたい！ キャンドル・アートとのコラボ、素敵でした。最後の空中スターメイン、さすが熱海！です。



熱海在住のバイオリン奏者・真野さん。何度も登場して、いろいろな曲を弾いてくれました。胸に響きました。



今回のキャンドルナイトはライブ配信していました。この写真はライブ配信を観ている方がその画面を撮ってくれたもの。「ZOOM」とあるのは、ZOOMで録画しながら、YouTubeなどに配信をしていたからです。寄付者の方々、そのほか多くの方が一緒に楽しんでくださいました。コメントを寄せていただいたり、ライブ配信中にオンライン寄付して下さる方も。



未来創造部の代表・光村さんがキャンドルをゆっくりととりながら、キャンドルナイトへの思い、ふれあい作業所さんへの感謝、これからやっていきたいことなどを静かに語りました。

このキャンドルホルダーはふれあい作業所さんが市中から集められた使用済みのガラス瓶やカップなどを選び分けて、シールを剥がし、きれいに洗って準備してくれたものです。だから、形も大きさもまちまち。「それがいい。人もいっしょ。いろんな人がいるからいい。皆で力を合わせたり努力することで、1つのものを創りだすことができる」と光村さん。

コロナ対策のため、今回は「人を集めない」イベントとして開催しました。3密にならないよう、繰り返し放送で注意を呼びかけたほか、人が溜まりそうなところに立って注意を促す役を引き受けてくれたボランティアさんも。

幸い、3密にならない程度に入れ替わり立ち替わり、あわせると数十人の方々が足を止めて、写真を撮ったり、「国境なき医師団」のパネルに目を留めて、募金箱に寄付金を入れてくれたりしました。小学1年生ぐらい？の子が、自分のお小遣いから募金箱にお金を入れてくれ、スタッフ一同、じーん。。。

22時には終了。残ってくれていたボランティアチームと撤収・清掃を終え、無事に終了したことを祝いました。

みなさん、本当にありがとうございました！



ライブ配信

生配信を行いました。下の写真にあるように、500人を超える方々が楽しんでくださいました。

YouTube 検索

1:20:05 / 2:24:40

熱海でスペシャルなキャンドルナイトを【生配信】

504 回視聴・2020/06/21 にライブ配信

27 0 共有 保存 ...

上位のチャットのリプレイ

熱海マリンサービス未来創造部 熱海のコロナ復

令和2年(2020年)6月18日 (木曜日) 日記

熱海新聞
熱海市中央町19-1
コルト山ビル1F
〒413-0015
電話 0557(81)0
FAX 0557(83)3
伊豆新聞本
〒414-0054
伊東市鎌田12
電話 0557(36)
伊豆新聞デジ
タル
https://digital.izu

熱海新聞

地元の業
におまかせ下
引越

マリナーサービス未来創造部

千個灯しネットで配信

21日に「100万人のキャンドルナイト」

マリナー委託事業などを手掛ける熱海市渚町の熱海マリナーサービス(光村智弘代表)が創立30周年を記念し立ち上げた「未来創造部」(同代表)は21日午後8時、100万人のキャンドルナイト@熱海を、同市渚町の渚小公園で開く。新型コロナウイルス感染症予防のため、キャンドルを灯(とも)す様子や、イベント上で動画配信する。同イベントに伴い、医療、福祉への支援を目的とした募金活動も行っている。

キャンドルナイトは、2冬至に近い夜に全国で行われ、03年から毎年、夏まで行われている。家で電気やテレビを消し、ろうそくを灯し、自身や家族、友人らとゆっくりした時間を大事に過ごすのも一つの目的。今夏は「コロナの向こうを照らす明かり」をテーマに、国内外で実施される予定。未来創造部は今回、渚小公園に千個のキャンドルをハート形に配置する。キャンドルホルダーに使う空き瓶は、網代の障害者就労支援施設「NPO法人熱海ふれあい作業所」から買い上げた。環境に配慮し一部は蠟燭(みつろう)を素材にしたろうそくを使用する。パイオリン演奏も行う。

募金は、同創造部の公式サイトで受け付けている。募金者の名前は動画配信で紹介する。寄付金は500円を途上国でコロナと闘っている「国境なき医師団」、3割を熱海ふれあい作業所、2割を障害者生活介護事業所「陽光の園」(同市緑ヶ丘町)の支援に充てる。動画配信は動画投稿サイト「ユーチューブ」や会員制交流サイト「フェイスブック」で行う予定。光村代表は「人を集めず、募金を集めるチャレンジを試みた。家にいながら体感し、思いを共有できたうれしい」と話している。

キャンドル用の空き瓶を確認する光村代表(右)ら=熱海市網代の熱海ふれあい作業所

収束願いキャンドルナイト

熱海1000個の明かりハート形に

夏至の夜に新型コロナウイルス感染症の収束を願いながら、元氣と幸せを発信するイベント「100万人のキャンドルナイト@熱海」が21日午後8時、熱海市の渚小公園で開かれる。イベントの様子はネット配信し、医療従事者や障害者施設に贈る支援金も募る。

主催するのは、マリナー委託事業などを手掛ける同市の熱海マリナーサービス(光村智弘社長)が本年度社内に創設した「未来創造部」。「コロナの向こうを照らす明かり」をテーマに、市内の障害者就労支援施設「熱海ふれあい作業所」が回収した空き瓶やグラスなど計千個にろうそくをともして、ハート形に配置する。

未来創造部の代表でもある光村社長は「コロナ禍でイベントの自粛が続いているが、観光地・熱海は頑張っていると発信したい。本来は現地でも多くの人と分かち合いたいが、ネットを通じて世界中の人とつながれたら」と話す。

動画は同部のホームページを通じて視聴できる。途上国でコロナと闘っている「国境なき医師団」をはじめ、熱海ふれあい作業所、障害者生活介護事業所「陽光の園」(同市)への支援金もネット上で募る。URLは<https://mirai-sozo.work/>。(熱海支局・豊竹橋)

キャンドルナイトに使う空き瓶などを準備する未来創造部のメンバー=熱海市内

熱海新聞

熱海新聞
熱海市中央8119-14
コビルビル502号4F
〒413-0015
電話 0557-8110668
FAX 0557-8313553
伊豆新聞本社
〒414-0054
伊東市鎮田1795-6
電話 0557-3611234
伊豆新聞デジタル
http://digital.iou-nb.co.jp

服部一秀教室

いけ花 千草古巻 果彩画
書道 スン買子
入会・見学・申込受付中
熱海市鎮田1795-6
0557-3611234

キャンドルナイト

ハート形の輝き配信

世界各地で 500人視聴 コロナの終息祈る



ハート形に配置され輝く千個のキャンドル＝熱海市漁町の港小公園

熱海市漁町の港小公園で21日夜、新型コロナ・未来創造部主催「キャンドルナイト」が開催された。イベントは、コロナウイルス感染症の終息を祈りながら、元々の様子を再現する「100万人の心」を灯る「キャンドルナイト」の熱海版「熱海マリンサレーズ」外へ広げられた。



新型コロナウイルスの終息を願って打ち上げられた花火の光輝が夜空を彩った。熱海

キャンドルナイトは、2003年から毎年、夏と冬とに近いうち、全国各地で行われていた。今夏は「コロナ」の感染拡大を懸念し、全国的にイベントを中止して、ろうそくを灯る「キャンドルナイト」(心灯)を、目録や家族、友人らとつながり、時間を大事に過ごすという目的が目的。今夏は「コロナ」の感染拡大を懸念し、全国的にイベントを中止して、ろうそくを灯る「キャンドルナイト」(心灯)を、目録や家族、友人らとつながり、時間を大事に過ごすという目的が目的。

無観客花火

半年ぶり「日常」イケブン主催
熱海市の熱海港21日夜、新型コロナウィルスの終息を願って、無観客花火の開催。医療従事者へ感謝の意を込めて、花火の光輝が夜空を彩った。

キャンドルナイトは、世界各地で500人視聴され、コロナの終息を祈る。熱海市の熱海港21日夜、新型コロナウィルスの終息を祈るため、元々の様子を再現する「100万人の心」を灯る「キャンドルナイト」の熱海版「熱海マリンサレーズ」外へ広げられた。

熱海市の熱海港21日夜、新型コロナウィルスの終息を祈るため、元々の様子を再現する「100万人の心」を灯る「キャンドルナイト」の熱海版「熱海マリンサレーズ」外へ広げられた。



動画生配信で募金も募る 幻想的なキャンドルナイト

市内渚町の熱海マリナーサービズ株式会社光村一智弘代表取締役の新規
未来創造部

キャンドルの幻想的な演出で募金を募った同イベント

事業部未来創造部はこのほど、渚小公園を会場に無償ボランティア活動「夏至の夜 熱海でスベシャルなキャンドルナイト」日本初！人を集めず、募金を集めることに挑戦します。を開催。静かな熱海の夜をキャンドルの醸し出す幻想的な雰囲気包んだ。

「夏至と冬至の夜に2時間だけ電気やテレビを消して、ろうそくを灯し、自分自身や、家族、友だちと、いつもとは違う、ゆたくりした時間を大事に過ごそう」という活動で、2003年から始まり、日本各地で行われている「100万人のキャンドルナイト」と連携し、新型コロナウイルス感染症の状況下で、世界と地元熱海と連帯する日本初の「動画配信による人を集めず、寄付金を集める」というもの。

表取締役は「日本全国で開催されている100万人のキャンドルナイトでライブ配信をして、熱海は元気だよと、発信しようというもので、協力をお願いします」と挨拶。また、同部のアドバイサーであり、2003年から始まった同イベントを立ち上げた1人でもある有限会社アイズの枝廣淳子代表は「コロナの中で大変な状況にありますが、みんなでこういふ時こそ心を一つにして楽しみ、コロナと闘っている医療従事者に寄付を集める活動を同時に行っていま」と述べ、スタート。渚小公園から渚デッキに通じる階段に同部のボランティアメンバーらが、約1000個のろうそくを入れたビンにハートの形に並べ火をつけ、風に揺れ動くキャンドルが幻想

的な風景を演出。その中で市内在住のヴァイオリン奏者、真野有奈さんが奏でるヴァイオリンの生演奏をその場で動画配信し、寄付を募った。生配信中のコメントには「キャンドルの明かりとヴァイオリンの音色に癒され、最高の声が寄せられ、近所から訪れた女性は「先ほど知って来ましたが、キャンドルがきれいでした。演奏もおもてな気な雰囲気だ」と話した。

集まった募金は、市内緑方丘町の社会福祉法人緑葉会「陽光の園」、認定NPO法人熱海ふれあい作業所、「国境なき医師団」へ寄付され、募金した人には当日の動画配信URLを伝え、今後、名前を動画内で紹介する。

また、光村代表取締役は今回のイベントに「来年もぜひ続けたい。今回集めたビンもきれいに保管して、また何かのイベントで使いたい」と述べ、さらなるイベント開催に意欲を見せた。

ブックバス
市立図書館ではきょう23日、次の会場による移動図書館を開館する。
▽第二小学校正門前12時30分〜13時30分

6月23日(火) 先勝
資料提供
▼1月生れ 11月移転や転業には有利
▼2月生れ 11月笑顔で物事に当たれ
▼3月生れ 11月積み重ねるのも悪知恵な資質欠く
▼4月生れ 11月経験不足で重にせよ
▼5月生れ 11月後始末を厳重にせよ
▼6月生れ 11月立場を明確

新型コロナウィルスの収束を願ってとまされた千個の
キヤンドル 熱海市の渚小公園



ハート形にろうそく1000個

熱海でイベント

熱海市の渚小公園で21日、元氣と幸せを
発信するイベント「100万人のキャン
ドルナイト@熱海」が開かれた。空き瓶など
を使った千個のキヤンドルがハート形に並
べられ、新型コロナウィルスの収束などを
願った。

同イベントは夏至と
冬至の夜に電気を消
して、ろうそくの明か
りの下で家族や友人
などどゆつくりと過
ごす催しで、17年前か
ら国内外で行われてい
る。

熱海市でのイベント
を主催した熱海マリ
ンサービス・未来創造
部(光村智弘代表)は、
「密」を回避するため
インターネットで現
地の様子を動画配信
した。各地から「明る
い兆しが見えた」「勇

コロナ収束願い配信

気づけられたなどの
コメントが寄せられ
た。
光村代表は「多くの
人と協力し合える形が
見えた。今後も未来に
つながる活動の輪を広
げていきたい」と話し
た。同部はコロナと闘
う「国境なき医師団」
や障害者就労支援施設
などの支援金をホーム
ページで募り、21日時
点で約20万円が寄せら
れた。引き続き協力を
呼び掛けている。
(熱海支局・豊竹喬)

7月1日 静岡新聞

**障害者施設に
支援金を贈呈**
熱海マリンサービ
スマリーナ委託事業な
どを手掛ける熱海市の
熱海マリンサービスの
未来創造部はこのほ
ど、同市の障害者就労
支援施設「熱海ふれあ
い作業所」と障害者生
活介護事業所「陽光の
園」に支援金計11万5
千円を寄付した。
支援金は新型コロナウイルス
の収束などを
祈って21日に同市で開
催した「100万人の
キャンドルナイト@熱
海」に合わせてインタ
ーネット上で募った。
全国から約50人が寄せ
たという。

市総合福祉センター
で両施設の関係者に寄
付金を贈呈した光村智
弘代表は「コロナ禍で
消毒液やマスクなど予
定外の支出があったと
思う。有効に活用して
ほしい」と話した。同
部は途上国でコロナと
闘っている「国境なき
医師団」にも支援金11
万5千円を贈った。

支援金を贈呈する光村代
表(左から3人目) 熱
海市総合福祉センター

7月3日 熱海新聞

リン部
マ創
海来
熱未

2福祉施設へ支援金

キャンドルナイトの善意

マリーナ委託事業などを手掛ける熱海市渚町の熱海マリンサービスの未来創造部（光村智弘代表はこのほど、熱海市網代の障害者就労支援施設「NPO法人熱海ふれあい作業所」に6万9千円、同市緑方丘町の障害者生活介護事業所「陽光の園」に4万6千円の支援金をそれぞれ贈った。

支援金は新型コロナウイルス感染症の終息などを祈って6月21日に同市の渚小公園で開いた「100万人のキャンドルナイト@熱海」に合わせネット上で募った。全国の約50個人・団体から寄せられた。贈呈式は市総合福祉センターで行われ、光村代表が両施設関係者に手渡した。光村代表は「コロナ禍でマスクや消毒液などの支出があつたと思うので、有効に使ってほしい」と話した。

この他、同部は、途上国でコロナと闘って



支援金を贈呈する光村代表（左から3人目）
＝熱海市総合福祉センター（提供写真）

リサイクル・キャンドル

今回のキャンドルアートでは、本当はすべて蜜ろうキャンドルを使いたかったところでしたが、予算の制約もあり、パラフィン製のアルミカップキャンドルも1000個使いました。



燃焼時間は4時間ですが、キャンドルナイトは2時間でしたので、まだ使えるキャンドルが1000個。これをごみとして捨ててしまつてはもったいない！



そこで不要になったフライパンを使って、使用済みのキャンドルを熱して溶かし、空き瓶に入れて、芯になるよう、麻の紐を固定してふたたび固め、リサイクルキャンドルをつくりました。



なにせ量が多いので、まだ全部は終わっていませんが、時間をみつけてコツコツとリサイクルキャンドルをつくって、非常用に配ったり、次回のキャンドルナイトで使ったりして、活かしていきたいと考えています。